実践編

奈良県内の特別支援学級担任の取組をヒントに指導例を実践編としてまとめました。
子どもの実態把握をもとにして、子どもにどう生かせるかを考えて、実践を作り上げてください。

表記について

障害種別	単元・題材名
教育課程上の位置付け	指導の形態：教科の目標や内容を取り入れた教科等名
実態 その教科における対象児の実態	目標 教科や単元における対象児の目標
実践 １時間の流れ、もしくは指導内容を記述 授業の具体的な工夫点や配慮点、指導するときのポイントを記述	
担任の願い 担任として、単元を計画した意図や指導するときの配慮、本人・保護者と共有する目指す将来像などを記述	

知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の場合
例…（特）国語

生徒に対して小学校の教科の内容や目標を取り扱う場合
例…（小）国語

知的障害特別支援学校における国語と算数の指導

国語

・絵本の読み聞かせを聞く
　再現遊びをする
・身近なものの名称を知る（聞いて分かる）
・単語のマッチング（見て合わす）
・一文字ずつのマッチング
・音と文字のマッチング（聞いて選ぶ）
・音と文字とものを結び付ける

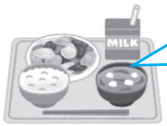
子どもの名前
子どもが好きな人や物、キャラクターの名前等、興味・関心のある教材を工夫する

はさみを　とってきて

「文字」と「音」、「イメージ」が一致するように

算数

・ものとものとを対応させる
　ものとものとを対応させて配る
　分割した絵カードを組み合わせる
　関連の深い絵カードを組み合わせる

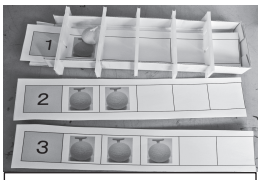


お盆に牛乳を一つずつ配る授業で学習したことを日常生活に結び付ける

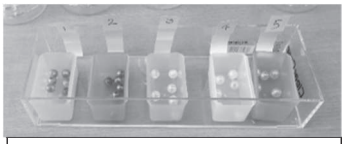
何かな？カード

・具体物を数える

シート状か、外枠があるかなど工夫する



写真の上に具体物を乗せる

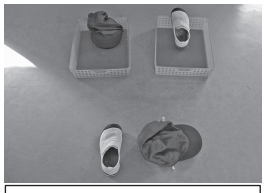


決められた数のビー玉をかごに入れる

・もの、形、色などの分類をする
　具体物同士、絵カード同士、絵カードと具体物

・大小、長短、高低などの違いが分かり、比べる

具体物で大小を比べる



具体物同士を分類する

絵カード同士を分類する

知的障害　小学校

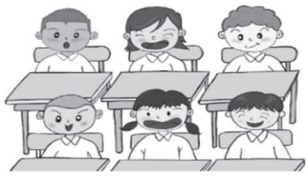
通常の学級の場を活用したＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）

特別活動、自立活動	特別活動、自立活動
実態 ・友達に自分の気持ちを素直に伝えたり、友達の気持ちを受け止めたりすることが難しい	**目標** ・自分の気持ちを伝えることができる ・友達の気持ちを受け止めることができる

実践

・全校放送により、適切なコミュニケーションのとり方を目指したロールプレイを視聴する
（あいさつ・上手な聴き方・あたたかいメッセージ・上手な断り方　など）
・交流及び共同学習として通常の学級の教室で、各学年の発達段階に適したロールプレイモデルを用いて練習する
・学習カードに、その日に学んだことを記入する
・特別支援学級で振り返りを行い、定着を図る

学習カードや掲示物を共有する



担任の願い

・同じタイミングで全児童に指導を行うことで、全教職員が一貫した対応をすることができ、児童が混乱しないで適切なコミュニケーションのとり方を学ぶことができる
・児童が学習場面で学んだソーシャルスキルを日常生活でも活用できるようにする

知的障害　小学校

忍者になるんじゃ！？

生活、国語、図画工作、体育、自立活動	遊びの指導：（特）生活、（特）国語、図画工作、体育、自立活動
実態 ・友達と一緒に遊ぶことが少ない ・「～したい」と気持ちを表現することが少ない	**目標** ・友達や仲間と活動を楽しむ事ができる ・身近な人に自分の願いや気持ちを伝えることができる

実践

・グループで話し合いながら、忍者になるために必要な動きや運動を考え、サーキットのコーナーを作る
・体育館にある用具で足りない物は自分たちで工夫して作る
（道具、看板、説明文など）
・コースを試している様子をタブレットＰＣで撮影し、その映像を見る時間を設けることで「どうしたらもっと良いものになるか」について話し合い、コースの改良や工夫を重ねる
・各コーナーの担当グループから遊ぶポイントの説明を聞き、約束を守って「忍者修行」を楽しむ
・各時間の終わりに活動を振り返る

道具などが足りないときに、教員から声をかけるのではなく、児童から言うようにする

児童が自分の気持ちに気付いたり、頑張ったところを発表したりすることができるように、「どのコースが好きだった？」「できなくて悔しかった？」「自分が考えたところはどこ？」「うまくいったところはどこ？」と教員が質問する

担任の願い

・感覚統合の視点を取り入れたダイナミックな活動を中心にすることで、一人一人の活動量を保障する
・児童が主体的に取り組もうとする仕掛けづくりをすることで、活動を通して良好なコミュニケーションの力を育てる
・縦割り班での活動を設定することで、上級生としての責任感を育み、児童が友達や仲間に伝えたり、説明したりする力を身に付けられるようにする
・ＩＣＴ機器を活用することで、児童が自分の活動を振り返り、自己理解を進めることができるようにする

知的障害　中学校

電車に乗って出かけよう

国語、社会、数学、特別活動、自立活動	生活単元学習：（小）国語、（小）社会、（小）算数、特別活動、自立活動
実態 ・公共施設や公共交通機関を利用する経験が少ない ・自分の経験や思いを話すことができない	**目標** ・電車の利用の仕方が分かる ・困ったときに質問したり、自分の経験をまとめて発表したりすることができる

実践

・事前学習をした上で、校外学習を行う
電車利用のときの困ったエピソードや対応について知り、解決するための方法を考える
切符を買って、ホームでの待機場所や順番など確認し、安全に待つ
気になったところ、知って欲しいところを自分で写真に撮る
・事後学習としてまとめたり、発表したりする
紙面でまとめるか、パソコン等を使ってまとめるかを選び、路線図や地図、撮影した写真を使って振り返りを行う

駅員さんに何をどう伝えたらいいかを考える
自分の住所や連絡先を言うか、メモを見せる
住所等を忘れたときや、困ったときに生徒手帳を活用する

構内放送がかかった時に意識できるかどうか、聞き取りの力や短期記憶の力についても、把握しておく

担任の願い

・教室での学習を実際の生活場面で生かせたか、次の課題は何かなど、生徒自身が気付けるようにする
・電車の利用以外にレストランやビュッフェの利用など、実際の経験を重視した授業の計画を立てることで社会経験を広げたり、余暇活動の充実を目指したりする等、将来の生活を豊かにすることにつながる

知的障害　中学校　　朝の会

保健体育、特別活動、自立活動	（特）保健体育、特別活動、自立活動
実態 ・教員の言葉がけがあると次の行動をしたり、身だしなみを整えたりすることができる ・友達と遊ぶ経験が少ない	**目標** ・予定が分かり自ら行動できる ・自ら身だしなみを整えることができる ・余暇活動を広げる

実践

・一日の予定確認（授業、教室など）をする
・身だしなみの確認をする
　確認用紙を見て、姿見や手鏡を使って、ペアになってなど
・トーキングタイム
・集団でするゲーム（ボードゲーム、カードゲーム等）を楽しむ
　どのゲームをするか、相談して決める

昨日のできごと、見たテレビの話題、出かけた場所など、時間を決めて話し、質問し合う

やり方を教え合う、順番を守る、次の人に声をかける、負けても大丈夫と思えるなどの経験をする

顔を見ながらのゲームは声のかけ方や感情をコントロールすることなどを学べる機会である

担任の願い

・毎日１時間目に生徒が特別支援学級に集まり、一斉に指導を受けられるように場面を設定する
・生徒自身が、相手にどのように見られているのかを気付き、身だしなみを整えられるようにする
・生徒が話したいことや聞いてほしいことを話し、質問し合うことを通じて、交流学級でのスピーチの時間に活用できるようにする．また、働くときに同僚との会話に活用できるような力を育てる
・生徒が仲間と安心して過ごせる経験を重ねて、休み時間や休暇中の過ごし方など余暇活動の充実が図られるようにする

知的障害　中学校　　調理実習をしよう

国語、数学、技術・家庭、自立活動	作業学習：（小）国語、（小）算数、（特）職業・家庭、自立活動
実態 ・生徒同士での話し合い活動の経験が少ない ・現在は保護者が食生活の管理を行っている	**目標** ・生徒同士で話合いをして課題解決ができる ・バランスの良い献立を考えることができる ・報告・連絡・相談ができる

実践

・三色食品群について学習し、バランスの良い食生活について考える
・パソコンや図書室等を活用して献立を考える
・それぞれ、考えた献立について話し合いをして今回作る献立を決める
・予算内に収まるようにチラシを参考にして、購入する食材や個数を買い物シートに記入する
・担当を決めてお店で買い物を行う
・調理実習を行う（同じメニューを２回繰り返す）
　１回目：役割分担をして…「ほう・れん・そう」がキーワード
　２回目：一人で…「困ったときにはＨＥＬＰ」がキーワード

話し合いの手順やポイントを示しておく

生徒の実態を考えて、プリントに書く（枠の大小や項目名の有無）かタブレットＰＣでまとめるかなどの複数の方法を準備し、生徒が選べるようにする

担任の願い

・教室での学習と実際の生活場面での行動を見て、生徒の課題（お金の扱い、商品の分類、コミュニケーション、援助スキルなど）を明確化する
・買う商品がないとき、商品の場所が分からないときなど、想定外の場合にも生徒自身が対応できる力を育む
・生徒が健康的な生活を送るための基礎となる力を付けられるようにする

知的障害　中学校　　仕事をしよう

国語、数学、技術・家庭、自立活動	作業学習：（特）国語、（小）算数、（特）職業・家庭、自立活動
実態 ・誰かの役に立ちたいという思いがある ・実際の仕事を体験したことがない ・小集団で役割分担をして作業ができる	**目標** ・作業を通して仕事について知る ・作業等を通して、自己有用感を得る ・報告・連絡・相談ができる

実践　配布準備の依頼があったら…

・教職員から仕事の依頼を受け、生徒が仕事内容の聞き取りを行う
　何を、いつまでに、どうするのか等を聞き取り、メモをとる
　（数量、締切日、納品場所　など）
　聞き取った内容を担任に報告する
・作業をする
　分担をして役割をやり遂げる
　（どの学年を担当するか、数える係・確認する係　など）
・仕事が終わったら教員に報告し、確認を受ける
　確認後、仕事が終わっていないところがあれば手伝う
・依頼者に納品する

依頼者が不在の場合など、想定外のことにも対応できるように、具体的にどのようにすればよいのかを体験をしながら学習する

過不足があったときの「〇枚、足りない」「〇枚だった」など生徒の実態に合わせて、声のかけ方を変える

担任の願い

・生徒が、交流学級担任や依頼者から「助かったわ」等の言葉を聞き、自分の行った仕事がどのように人の役に立つのかを感じ、感謝される経験を積むことで自己有用感へとつなげられるようにする
・どうすれば正しくできるのか、速くできるのかなど、得意な方法を生徒自身が考えられるようにする
・印刷や清掃、お茶の提供など、学校生活に関わる内容を扱うことにより、他の教職員とともに生徒の成長を考えることにつなげる

知的障害　中学校　　職場体験

国語、技術・家庭、自立活動	作業学習：(特)国語、(特)職業・家庭、自立活動
実態 ・将来の自分についてのイメージをもつことが難しい ・学校では自分の気持ちを伝えたり、作業に集中したりすることができる	**目標** ・今後の自分について考える ・職場体験でもっている力を発揮する

実践

・事前学習として、働くことについて考える
　働いている先輩を招いての座談会
　今の自分・将来の自分について考える
　適切な身だしなみやふさわしい言葉遣いについて知る
・職場体験を行う
・事後学習として、報告会を行う
　目標の振り返りや実習ノートの書込み
　体験報告会で発表

お礼状や報告会での発表方法として、文章で書く、絵で描く、音声、動画などから生徒が選べるようにする

担任の願い

・中学校の職場体験に限らず、作品展の受付など短時間での体験も取組内容として考えられる
・実習を通じて、生徒自身が、将来「〇〇できるようになりたい」など今後の目標について考えられる力を育む
・キャリア教育の視点から付けたい力を考え、他の教科とも関連付けて取り組み、生徒のもてる力を伸ばす

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）では、視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者及び病弱者である子どもに対する教育を行う特別支援学校における各教科の内容の取り扱いについて、障害の特性等に応じた指導上の配慮事項に関する記述が充実されました。

以下に、肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害に関する記述を、それぞれ抜き出しました。

肢体不自由

(1) 体験的な活動を通して言語概念等の形成を的確に図り、児童生徒の障害の状態や発達の段階に応じた思考力、判断力、表現力等の育成に努めること。

(2) 児童生徒の身体の動きの状態や認知の特性、各教科の内容の習得状況等を考慮して、指導内容を適切に設定し、重点を置く事項に時間を多く配当するなど計画的に指導すること。

(3) 児童生徒の学習時の姿勢や認知の特性等に応じて、指導方法を工夫すること。

(4) 児童生徒の身体の動きや意思の表出の状態等に応じて、適切な補助具や補助的手段を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。

(5) 各教科の指導に当たっては、特に自立活動の時間における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにすること。

肢体不自由のある子どもに必要な指導内容の一つとして、生活経験の拡大があり、担任として、体育の授業では、直接的な経験が少ない子どもに配慮し、ゲームの参加の仕方等、様々な工夫を考えています。

肢体不自由　中学校

シッティングバレーボール

体育	体育
実態 ・上肢機能軽度障害、体幹機能障害、起立困難 ・車いすを使用 ・知的に遅れはないが、書字や作業に時間がかかる	**目標** ・ネット型の特性を生かし、楽しくゲームを行うことができる

実践

準備するもの
バトミントンコート、ネット（高さは実態に合わせて調整）、
ボール（ビーチボール、ソフトバレーボールなど実態に合わせて選択）

複数の生徒が必ずボールに触れてから相手コートに返球する、
レシーブでゲームを始めるなど、ルールを決める

多くの生徒がゲームに参加できるか、楽しめるかを考えて、みんなで相談してルールを決める

担任の願い

・障害の有無に関係なく、支援を必要とする生徒に配慮した工夫をし、一緒に運動する環境をつくる
・車いすから降り、運動を行う場合には細かな配慮が必要となることを意識して、教員はコミュニケーションをとりながらそれぞれの生徒のニーズをしっかりと把握した上で指導する
・生徒が体験的な活動を通して、感じたことや気付いたことなどを言語化する力を育てる
・チームでコミュニケーションを取り合うとき、言葉だけでなく身振りなど、補助的手段の活用を促す